





## 平成二十四年度 第五回理事会開催

たが、ブロック長は、一律に兼任すべきでなく、それぞれのブロックの判断に任せることとし、部会長は、部会担当のものと第五回理事会を開催した。

- (1) 一般社団法人移行について  
一般社団法人への移行認可申請については、九月に公益認定等委員会から内閣府に認可の基準に適合するとの答申があり、内閣府からの移行認可書発行予定は十一月下旬となっているので、十二月三日に移行登記をするとの報告があった。

- (2) 平成二十五年度事業計画(案)、予算(案)について  
一般社団法人移行に伴う十一月下旬となるので、十二月三日に移行登記をするとの報告があつた。

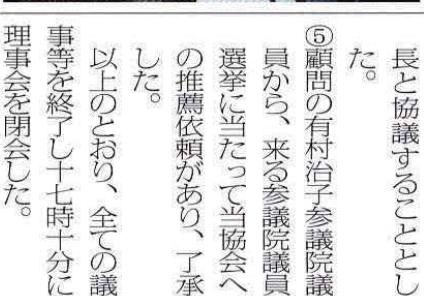
- (3) 規程等の変更について  
一般社団法人移行に伴つて、関連する諸規程の法人名称の改定等を了承し、通常総会の報告事項とするとした。

- (4) 委員会構成及び理事会等日程案について  
①委員会構成については、四委員会において、それぞれの所管事項について委員長を中心にして調整する役割をもたらせ、最終決定は理事会で行うこととしていることと説明があつた。

- (5) 平成二十五年度通常総会開催について  
会員に対する総会案内の発出、総会・懇談会の来賓等招待者の選定及び従業員永年勤続表彰者の選定について了承した。

- (6) 図書刊協力について  
学術委員会の図書編集小委員会で認められた「生垣」について了承した。

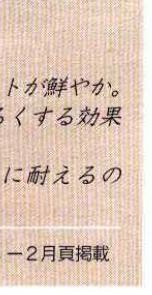
- (7) その他  
②ブロック長及び部会長を理事に兼任すべきと意見もあつた。



- (7) その他報告事項等  
①アボック・カルタ賞推薦委員会から、アボック・カルタ賞に小林公成氏を推薦するとの報告があり、了承した。

- ②オランダで開催された国際園芸博覧会フロリアード2012ジャパンディヘ協会代表として派遣した二名から提出された報告書について説明があつた。

- ③理事会等日程案については、開催回数を削減することとした。



## 植生管理士認定試験を実施、二十六名が受験

植生調査委員会は、十一月二十日(日)東京農業大学において、第三回植生管理士認定試験を実施した。試験結果は、およそ六名が受験した。午前十時より、試験監督官である中村教授の合図をもとに、安らず事務局から報告するこ

ととなっている。

今回で三回となる試験実施により、環境省・農林水

産省共管の「人材認定等事

明けに申請予定。」

と述べた。

植生調査委員会は、十一月二十日(日)東京農業大学において、第三回植生管理士認定試験を実施した。試験結果は、およそ六名が受験した。午前十時より、試験監督官である中村教授の合図をもとに、安らず事務局から報告するこ

ととなっている。

今回で三回となる試験実施により、環境省・農林水

産省共管の「人材認定等事

明けに申請予定。」

と述べた。

た。

</div





年間特集

## 生物多様性を考える

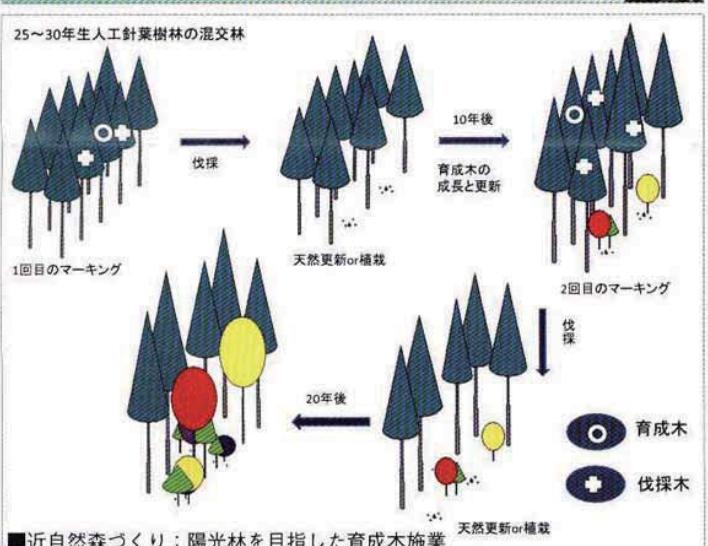
森づくりと生物多様性～豊かに生き延びるために～

## 第6回 近自然森づくり「在来種の豊かな陽光林」

近自然森づくり研究会会長 北海道工業大学大学院教授 岡村俊邦氏



チューリッヒ州 複層異齢針広混交陽光林内



れば、さうに悲惨な状況になります。いままでは、問題が起これば、税金の投入で凌ぎました。しかし、危機管理が、今後も持続的に存続する保証はありません。スイスでは、二〇〇五年に経済に対する補助金は廃止されました。しかし、危機管理に基づく「近自然森づくり」で、林業が経済的に成り立っています。

## 生物多様性と生態系サービス

## 持続可能な森の姿と日本の森の現状

### スイスの近自然森づくりと危機管理

わたしたち人間の「いのち」と「暮らし」は、生物多様性の恵みによって支えられています。すべての生物の存立基盤である酸素も、生存に適した気候も、食水も、生物の長期に亘る環境形成作用によりもたらされたものです。そして、このような基盤の上に、人間は、「いのち」と「暮らし」に不可欠な食べ物や木材などの資源、医薬品などを得ると同時に、地域の生物多様性を利用する知恵と伝統に基づく地域性豊かな文化によって安定した社会を創り、さらに、その社会は、多様な生物がつくる安定した生態系により、自然災害からも守られてきました。

このような生物多様性から人間が得ているたくさん恵みを「生態系サービス」と呼びます。得てして人間は、目の前の利益を求めるがちですが、そのことに「生態系サービス」が低下してしまえば、長期に見れば損失が利益を上回る結果となります。したがって、自然に手を加えるに当たっては、「生態系サービスを低下させない、また、低下してしまったものは、持続的に向上させる方策を考える必要があります。

この連載のテーマである森づくりに関して言うと、わたしたちが日本の自然から得ている「生態系サービス」の多くは、森からもたらされたものです。木材も、水も、酸素も、美しい景観も、自然災害によるもので、これらが持続的に存続するには、森が持続的に存続することが不可欠です。

森の存続が失われる原因は、人間による伐採以外にも自然災害によるものがあります。それは、風や病虫害によるもの、山火事や山崩れ、津波や雪崩によるものなど様々です。これらの害に強い森は、いろんな樹種、いろんな樹齢、いろんな樹高ができる森です。いろんな樹種があれば、一つの原因で森の木が全滅することはありません。

しかし、今の日本の森はどうでしょう。人工的に造られた森のほとんどは、同じ樹種、同じ樹齢、同じ樹高の樹木からできています。スギの人工林の場合、森のすべての木が同じ遺伝子（クローニング）のものが多くなっています。このような森は、同じ病気や虫により、一斉に消失する危険が高くなります。

「近自然森づくり」は、経済と環境の両立を図るために、育林と伐採だけでなく、木材の加工、販売、利用、広報も含めた方法です。この連載の最後に、「近自然森づくり」のきわりだけを四枚の写真と図で紹介します。興味のある方は、「近自然森づくり研究会」にご連絡ください。

最初の写真は、チューリッヒ州の「複層異齢混交林」の写真です。このように、多様な樹種、樹齢、樹高からなる安定した明るい森になっています。

この写真は、チューリッヒ州の「複層異齢混交林」の写真です。このように、多様な樹種、樹齢、樹高からなる安定した明るい森になっています。

条件です。また、真っ直ぐ下の方に枝がなく、質の良い木なることも重要なことです。伐採木は、先に述べた他に、伐採して販売した場合、赤字になら

ないことが条件です。

このような作業をほぼ十年置きに続けますが、伐採木が取り除かれたところは、明るくなり、そこに落ちた木の種の発芽や既に発芽していた苗の成長が始まります。これは天然更新と呼ばれるもので、苗を人工的に植栽する必要が無く、経費の削減に繋がります。そ

して、このような作業を三回程度繰り返すことで、複層異齢混交林へと変化して行きます。

育成木と伐採木を選抜するマーキングは、フォレスターと呼ばれる林業技術者にだけ許される行為です。森林の所有者であっても自分の森の木を勝手に切ることできません。最後の写真的右から三人目の男性がこの森のフォレスター



スイスのフォレスターと森林作業員

## 日本列島植木植物園

### フウリンガマズミ

Viburnum setigerum



\*落葉低木 樹高1~3m 原産地 中国

\*5月頃、散房花序の白い花をつける。

\*10月頃、風鈴のように垂れ下がる卵形の核果をつけ、

黄色から赤橙色に変化していく。

文章・画像協力：がまざみグループ

### ナショナルプランツコレクション\*

\*世界的に価値のある植物の種・品種等を属のレベルで集め、植物の多様性の維持や希少種・絶滅危惧種の保護に役立てる事を目的としたコレクションです。



## お知らせ

## (一社)日本植木協会・平成25年度通常総会

日 時 平成25年1月25日(金)  
所 在 熱田神宮会館  
〒456-8585 名古屋市熱田区神宮一丁目1番1号  
電 話 052-671-0010  
受付時間 12時00分より  
通 常 総 会 13時30分~16時00分  
講 演 会 16時15分~17時30分  
懇 談 会 17時40分~19時00分  
懇談会参加費 10,000円  
参 加 手 続 旅行関係・諸経費の集金等業務を、リゾートトラストへ委託しました。参加の方はリゾートトラストからの案内書によりお申し込みください。



式典会場にてご挨拶される皇太子殿下



お手入れされる皇太子殿下

十日(土)、伊豆市のあまぎの森にてお手入れ行事が開催された。平成十一年第五十回全国植樹祭において、天皇皇后陛下がお手植えされたヒメシャラヤマ

翌十一日(日)は、袋井市工行事が開催された。静岡県知事専従により、皇太子殿下

と述べられた。國土緑化推進機構理事長による大会宣言と次期開催県である埼玉県知事の挨拶、最後に袋井市長

が閉会のことを述べ、式典は盛大のうちに閉会となつた。第三十七回全国育樹祭は埼玉県にて「育てようみどりは未来のたか

り」と題して開催予定。松下辰雄

青年部会 関東・甲信越ブロック長 松下辰雄  
(株)松下園芸・千葉県

第三十六回 全国育樹祭  
皇太子殿下をお迎えして 静岡県で開催『小さなお庭』に見る  
未来へのカタチ。 部会だより

料を好みに選定し、1・2×1・2mの植栽枠十基に我が青年部の精銳をアドバイザーとして配置し説明を受けながらも、あくまでも自由な発想での『小さなお庭造り』が始まりました。

正直いざ始まるまでは、泥遊びの延長的な程度になりますが、予想してお

るでは?と予想してお

り、しかしそれが緑化に對

しての興味への入口になれ

ばいい位に考えていま

す。

こちらは平成二十四年九

月二十九日から十月二十八

日まで東京都内六ヶ所にて

開催された「第二十九回

全国都市緑化フェア」内の

日比谷公園会場に於いて、

十三日(土)にコンクール開

催、それから二十八日(日)の

撤収までの二週間は展示、

&lt;p